

第 135 回 『わかるように伝えていますか』

香川大学教育学部 特別支援教育領域 教授
香川大学教育学部附属幼稚園 園長
香川大学学生支援センター バリアフリー支援室 室長

坂井 聡

発達障害と教育現場

今回は、学校教育の現場における発達障害のある児童について押さえておき、新しい環境への配慮を考える上での資料としたいと思います。発達障害ということばは、近年、広く認知されるようになり、マスコミ等でも取り上げられることが多くなったと感じます。

文部科学省では発達障害を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものと定義しています。

この発達障害の定義をもとに、文部科学省は 2022 年に全国の小学校・中学校、高等学校を対象として実態調査を実施しました。この全国実態調査の結果が、2022 年の 12 月に発表され、小学校、中学校で学習面に著しい困難を示す児童、生徒が 6.5%、行動面で著しい困難を示す児童、生徒が 4.7%、学習面、行動面の両方に著しい困難がある児童、生徒が 2.3%、そして学習面か行動面のどちらか、あるいはどちらにも著しい困難を示す児童、生徒が 8.8%いることを明らかにしたのです。高等学校でも該当する生徒が 2.2%いるとなっています。この調査は専門的な診断による調査ではないため、児童、生徒の発達障害の有無を調べたものではありません。しかし、小学校、中学校、高等学校の通常学級の担任が、発達障害のある子どもの典型的な行動特徴をどの程度把握しているのかという調査であるため、教育現場をフィールドにしている人にとっては、重要な意味を持つ数値であるということになると思います。ここでは、ASD のある人のことを中心に話を進めていきます。まず、その特徴的な症状について整理しておきたいと思います。

○人間関係を作るのが苦手

ASD のある人の最も大きな特徴は、人間関係を作るのが苦手だということです。孤立していてもあまり気にしなかったり、一人遊びを好む傾向が強かったりします。場の雰囲気を読むことが苦手なので、周りが困惑したり、傷つくような発言を平気でしたりすることもあります。もちろん悪気があるわけではありません。相手がどのように感じているのかがなかなか考えられないということなのです。

また、ゲームなどをする場合には、仲間と協力してプレーすることが苦手で、一番になったり勝つことだけにこだわったりすることもあります。そして、決まりごとやルールに厳格で、正義感が強く融通がきかないことが多いため、周囲の人に受け入れられない経験をすることも多いのです。

○コミュニケーションすることが苦手

ASD のある人は、コミュニケーションすることが苦手です。相手の興味や関心におかまいなく、自分の言いたいことを一方的に話したり、難しい言葉を使って話すことや形式的な言い回しにこだわったりすることがあります。そのため、やり取りであるはずのコミュニケーションが成立しにくくなってしまいます。また、言葉の裏の意味を理解することが苦手なため、冗談やユーモアが理解できなかったり、字義どおりに解釈したりすることがあり、その結果、傷ついてしまうことも多いと考えられます。

○こだわりが強いが、想像するのは苦手

ASD のある人は、自分の興味のあることや、こだわりのあるものには熱中し、それに関連することには、その人の普段の行動からは想像できないくらいの能力を発揮することがあります。興味や関心の対象は様々で、電車や車、恐竜、昆虫、カレンダーなどであったりします。小さいころは「○○博士」などと呼ばれていることも多いようです。

その一方で、想像するのは苦手です。人の気持ちや考えなど見えないものを推測することが特に苦手なため、相手の気持ちがわからないために不安になったり、はっきりものを言ってしまうたりしてトラブルになることがあります。

○独特の感覚や知覚

ASD のある人のなかには、聴覚、触覚、臭覚、味覚などに、極端に敏感だったり鈍感だったりする人が少なくありません。自傷行為の原因が感覚の鈍感さである場合もあります。逆に感覚が敏感な場合は、人に触れられることを極端に嫌がったり、周囲の人が気にならない程度の蛍光灯の光がまぶしすぎと感じたり、蛍光灯から発せられるきわめて小さい音が気になったりすることもあります。大きな声や音などは、パニックの引き金になることも少なくありません。また、味覚や臭覚の過敏性は、強い偏食の原因にもなることがあります。

○運動面での不器用さ

高機能自閉症やアスペルガー症候群のある人のなかには、運動が苦手な人が少なくありません。縄跳びやマット運動、ボールを使ったスポーツなどが特に苦手なことが多いようです。運動する際には体の各部位の動きをイメージし、そのイメージに合うように各部位の動きを企画、指令を出す作業が必要になります。しかし、これがうまくいかないと、協調した運動がうまくできなくなってしまいます。協調運動の困難さは、文字を書くときや絵を描くときにも影響します。また、細かい作業が苦手だったりとすることも関連があります。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部特別支援教育領域 教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。